

言語通級指導教室「ことばの教室」 自立活動学習指導案

1 単元名

サ行音の練習「神経衰弱ゲームをしよう」

2 指導の立場

本校の「ことばの教室」には、市内の小学校より23人(自校:9人, 他校:14人)が通級している。各学校での授業を削ってでも、学習上や生活上の困難を改善・克服するために、今この時期に通級での指導を大切にしたいという本人や保護者の強い願いを受けて、支援を進めているところである。

主訴としては、構音障害18名、吃音1名、言語発達遅滞2名、口蓋裂1名、難聴(中等度)1名である。表面的にはわからないが、それぞれが様々な課題を抱えていることが多く、自分に自信をもてずに生活していることが気になる。そこで、自分のペースで学習することができる通級指導教室が自己肯定感を高めるきっかけとなり、そこで得た自信が学校生活を充実したものにするとともに、自立への一歩となり、社会参加の基盤となる力になるのではと考えた。

そのために、多面的なアセスメントを行い、課題を焦点化することで、個に応じた支援方法を工夫していきたい。また、児童の願いを大切にしながら、「できた」「わかった」という充実感を味わうことができる指導を心がけていきたい。

3 児童の実態

(1) アセスメントの解釈

<基本情報の要約>	<検査情報などの要約>
① 初話が遅く、発音が不明瞭であったため、3歳より就学前までこども発達センターに通所していた。A児自身は発音について気にする様子はない。 ② 多動であり、集中してられる時間が短かった。 ③ 指示が入らず、やることが分からなかったり、説明を最後まで聞かないでやり始めたりすることがあった。 ④ 自分の名前の読み書きはできるが、その順番でしかできない。 ⑤ 初めて行うことには抵抗を示すことがあった。 ⑥ 気持ちの切り替えがすばやくできないことがあった。 ⑦ どんなときも大きな声で話している。 ⑧ 身体や指先の使い方や力の入れ方が分からなかった。 ⑨ 姿勢保持が難しい。	ア 舌のコントロールが難しい。 イ 歯茎摩擦音や歯茎破擦音の構音点が後方になっている。 ウ ラ行音とダ行音の混同、ラ行音の子音省略、イ列音やエ列音に側音化がみられる。 エ 全般的知的水準は「平均の下」だが、能力間のアンバランスが大きく、能力水準は幅をもって考える必要がある。 オ 言葉の理解や操作は全般的に苦手である。 カ 処理速度が遅く、注意集中に弱さがある。 キ 目と手の協応運動が苦手な可能性がある。 ク イメージしにくいものの視覚的な記憶や聴覚的な処理は弱い。 ケ ちょっとした雑音でも注意がそれやすい。

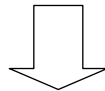
<基本情報と検査情報などとの関連付け>

- ①⑦⑧⑨ーアイウキ 粗大運動や微細運動が苦手なことが、不器用な身体の使い方となり、姿勢保持や声量の調整にも関係していると考えられる。指先の巧緻性の低さから、目と手の協応運動の苦手さも推測される。口唇や舌の動きも体の一部であり、自分でうまくコントロールできないことが、発音にも影響していると考えられる。
- ②⑤ーエオカクケ 言語理解の弱さのため、説明が理解できずやることが分からなかったり、聴覚的短期記憶の弱さもあり集中して話が聞けなかったりしていると考えられる。また、ちょっとした雑音でも注意がそれやすいこともあり、それが集中時間の短さになっていると推測される。
- ③ーエオカクケ 言語理解や注意集中の弱さに、不注意や衝動性も重なり、聞くことへのつまずきになっていると推測される。
- ④ーエオカキク 暗号化された情報を機械的に処理することの困難さや聴覚的記憶の苦手さが、文字の読み書きの困難さにつながっていると考えられる。音読における勝手読み、ひらがなやカタカナの想起の難しさなどの実態から、音韻を処理することの苦手さも伺える。書くことについては、目と手の協応運動能力の弱さも加わっている。
- ⑤⑥ーオカ 行動が遅れたり切り替えが難しいのは、言語理解や処理速度に弱さがあるためと推測される。

<今後の指針>

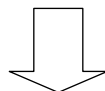
- ・視覚優位であると考えられるため、写真やイラスト、図など視覚的な手がかりを用いながら支援を行う。
- ・聴覚的な処理や記憶は苦手であるため、即時評価を繰り返すことで、よかったときの感覚を身体で覚える。聴覚的フィードバックが大切になる発音の学習においては、録音して聴くことで自分の発音の弁別を行う。
- ・言語理解が弱いため、指示するときには具体物を使ったり、実際にやってみせたりする。
- ・気が散りやすく、集中できる時間が短いため、短時間でできる活動を多く仕組む。また、掲示物や机上など教室環境を整える。
- ・身体の使用方が不器用なため、A児の興味・関心があるものを使いながら、意図的に身体を使う活動を仕組む。
- ・即時評価し、よかったことを認めていくことで、A児の自信につなげる。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

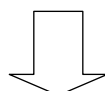


健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・周囲のことに気が散りやすく、やるべきことにすぐに取りかかれないことがある。	・すらすらと読んだり書いたりできるようになりたいという意欲がある。 ・新しい環境に慣れるまでに時間がかかったり、初めて行うことに抵抗を示したりすることがある。	・周りを見ながら行動することが難しいときがある。 ・説明を聞き漏らしたり、最後まで聞かずにやり始めたりする。	・読んでいる箇所を目で追っていくことが難しい。 ・単音での音の弁別はほぼできる。	・姿勢保持が難しく、常に身体を動かしている。 ・手先が不器用である。	・分からないときに聞き返すことができる。 ・正しく発音できない音がある。

幾つかの指導目標の中で優先する目標として



指導目標	・サ行音を正しく発音し、明瞭度を上げることができる。 ・ひらがなを読んだり書いたりすることができる。
------	---



指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		・障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。 【2－(3)】	・自己の理解と行動の調整に関すること。 【3－(3)】	・感覚や認知の特性への対応に関すること。 【4－(2)】	・作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。 【5－(5)】	・言語の受容と表出に関すること。 【6－(2)】

選定された項目を
関連付け具体的な
指導内容を設定

具体的な指導内容	・発声・発語器官の微細な動きやそれを調整する力を高めるとともに、音の弁別を行うことで、サ行音を正しく言えるようにする。	・力のコントロールや協応動作がスムーズにできるよう、粗大運動や微細運動なども行う。	・文字に興味をもてるようにするために、絵カードや文字カードを使い、ひらがなを読んだり書いたりする。	・自分の発した音を注意して聴く耳を育てるために、自分の発音や音読などを録音して聴き自己評価を行う。	・即時評価をすることで、「できた」「わかった」という充実感を積み重ね、自分に自信をもてるようにする。
----------	---	---	---	---	--

4 願う児童の姿

A児にことばの教室で頑張りたいことを尋ねると「字を読んだり書いたりしたい」と答えた。ひらがなを習い始めた5月に聞いたこともあり、全部のひらがなをすらすらと読んだり書いたりできるようになりたいとのことだった。「できるようになりたい」というA児の強い思いや保護者のニーズ、A児の実態などを踏まえ、願う姿を次のように考えた。

<年間指導目標>

- ・発音の土台となる発声・発語器官の微細な動きやそれを調整する力を高め、日常会話や音読でも正しくサ行音を発音することができる。
- ・言葉を使って自分の気持ちや思いを伝え、相手とやり取りをすることを通して、コミュニケーションの楽しさを味わうことができる。
- ・ひらがなとカタカナをすらすらと読んだり書いたりすることができる。
- ・全身の発達を促しながら、苦手なことにもチャレンジし、自信をもってできることを増やす。



<前期指導目標>

- ・脱力し、スムーズに動かせる舌をつくることができる。
- ・サ行音の発音の仕方を学習し、単音で正しく発音することができる。
- ・ひらがなを読むことができる。
- ・粗大運動や微細運動に取り組むことができる。

5 9月までの指導経過より

(個別の指導計画より抜粋)

	指導目標	指導内容と手立て	活動の様子・評価
自由会話	自分の思いを言葉で相手に伝えようと努力することができる。	- 毎時間、「お話タイム」を設定する。 - 思いを引き出すために、音の誤りがあっても指摘することなく聞く。 - 質問をし、会話のキャッチボールを行う。	- 始業や終業の挨拶では、舌や口周辺、肩や身体全体にまで力が入り、必要以上に大きな声となり、言葉としてのスムーズさに欠けることがあった。 - 初めはひとつの単語で答えることが多かったが、慣れてくると文章で話ができるようになってきた。 - 音の誤りを特に気にすることなく話していた。 - 興奮してくると力が入り、声量も大きくなった。
発声・発語器官	脱力し、スムーズに動ける舌をつくることができる。	- 鏡を見ながら、ボーロなどを使って「舌平ら」の練習をする。 - 舌尖を上下左右に接触させる練習をする。 - 舌尖を言われたところにポインティングできるように練習する。 - 母音の口形練習を位置付ける。	5月のボーロのせでは、力が入った「イモ舌」で10秒が限界だったが、少しずつ脱力できるようになり、30秒のせられるようになった。 - ボーロをのせたまま舌の出し入れが3回できた。 - 口の周りに付けたミルクせんべいやボン菓子を舌尖で取れるようになってきた。
聴覚弁別	他者の発音を聴き、単音での異同・正誤弁別をすることができる。	「きくきくドリル」を利用して、集中して聴く練習を行う。 - ひらがなカードと対応させながら、弁別を行う。 ○×の札を使い、ゲーム感覚で何度も繰り返し練習する。	- 自然音や環境音の弁別から始めたことで、よく聴くという練習をすることができた。 - 教師が発音した音はほぼ正しく聴き分けることができていた。 - 自分が発した声の弁別は「分からん」と答えることが多かった。
構音	サ行音の発音の仕方を学習し、単音で正しく発音することができる。	- ボーロを用いて、脱力したスプーン舌の練習を行う。 - 構音位置と正中より息が通ることを体感させるためにストローを用いる。 - 口の形や舌の位置などを鏡で見ながら行う。 - 風の音「s」に母音を付けて、サ行音を発音する。	- 脱力した舌を保持できる時間が長くなってきた。身体が動く舌にも力が入るため、身体も脱力するよう声をかけた。 - 嚙んでしまうことが多く、ストローを使った練習はあまり行わなかった。 - 構音位置が後方になりがちのため、風の音が「シュー」のように聞こえた。 - サ行では「セ」が一番正しく聞こえたが、サ行音がシャ行音に聞こえることが多かった。
その他	- ひらがなを読むことができる。 - 粗大運動で体幹を鍛えることができる。 - 指先を上手に使って、文字を書いたり作品を作ったりすることができる。	- ひらがなカードを用いたゲームを行う。 - 毎時間音読を位置付ける。 - ストレッチやボール遊び、つり橋などを利用したサーキット遊びなど全身を使う運動を仕組む。 - ドミノや折り紙、シール貼りなど楽しみながら指先を使う。 - ハサミを使う活動を意図的に行う。 - なぞり書きや迷路をすることを通して運筆練習をする。	1学期末には定着しなかったひらがなの読みが、9月末にはほぼ読めるようになってきた。五十音表を使えば書けるようになってきつつある。 - 静止して椅子に座れず、腕や足などを動かしたり、肩に力が入ったりする姿が目立つため、床に仰向けに寝て、身体の力を抜くことを体感した。 - ハサミなどは苦手だったが、友だちがつくった作品を見て意欲を示し、作品づくりに挑戦できた。 - 迷路ではなるべく壁にぶつからないようにゆっくり書くことを心がけることができるようになってきた。
在籍校・家庭との連携	- 保護者や担任の願いやニーズを聴き、アセスメントに生かすことができる。 - 様子を交流し、情報を共有する。	- 保護者に対し、個人プロフィールの記入をお願いする。 - 担任との連絡を密に行う。 - 連絡ファイルを利用し、保護者や担任と様子を伝え合う。	- 個人プロフィールの記入により、生育歴や家庭での様子、保護者の願いなどを知ることができた。 - 連絡ファイルなどを用いて情報を共有したことで、学校と家庭が同じ方向を向いて支援することができつつある。

6 単元について

児童の実態やこれまでの指導の経過を踏まえ、本単元では、サ行音が正しく発音できることをめざしている。

日本語の五十音表では、サ行音は「サ、シ、ス、セ、ソ」となっているが、このうち「シ」は、他のサ行音「サ、ス、セ、ソ」と比べ構音点がやや後ろにあり、歯茎硬口蓋と前舌を構音点とする摩擦音であるため、シャ行音(シャ、シ、シュ、シェ、ショ)のイ列の音といえることができる。A児は「シ」も含めシャ行音は言えているため、本単元では、「シ」以外の「サ、ス、セ、ソ」をサ行音として指導していく。

A児は、身体の使い方が不器用で、姿勢保持ができなかったり声量の調整が難しかったりする実態がある。そのため、身体全体を使った粗大運動や指先を使った微細運動なども行いながら、発声・発語器官の微細な動きやそれを調整する力を高める練習を毎時間位置付け、口唇や舌などの細かい動きが必要となる構音練習へとつなげていきたい。

発声・発語器官の微細な動きやそれを調整する力を高める練習では、自分の舌をスムーズに動かすための基礎である「舌平ら」の練習を大切にするとともに、サ行音を発音するとき構音点が後方になりやすいため、舌先を意識して動かすような練習を行う。それを生かして行うサ行音の構音練習では、ストローを使ったり、舌を軽く噛んだりしながら、構音点や息の出し方を身に付けさせ、脱力した舌の正中から出る風の音「s」に母音を付けてサ行音が出せるように練習する。単音で正しく言えるようになったら、無意味音節、単語、短文へと進めていきたい。舌を出して摩擦音の練習をすると、口が横に広がりやすいため、口形が変わらず母音を続けやすい「セ」から指導をし、「サ」「ソ」「ス」と進めていくことを考えている。

正しく発音するためには、正しい音や誤り音を聴きとる耳を育てることも必要である。教師の発した音を弁別するだけでなく、自分の発音や教科書の音読などを録音し聴くことを通して自己評価も行い、注意して聴ける耳を育てたい。

また、A児はひらがなの読み書きが得意ではないため、文字に興味をもたせるために神経衰弱ゲームを行い、その中で書いたり読んだりする時間を設け、文字と音とを対応させた構音指導を行う。特に、書くときには「さるの『さ』」などと言うことで、文字を思い出すきっかけにし、それでも思い出せないときには五十音表を示し、ひらがなの読み書きを行いたい。そして、できたことだけでなく、できるように頑張って努力した過程も認めながら評価し、次への意欲にもつなげていきたい。

さらに、毎時間、教科書教材を音読することで、正しい発音とともにひらがなの読み書きの定着をめざし、クラスや家庭での般化を意識させていきたい。

現段階でのA児の実態は、舌が脱力できる時が増え、卵ボーロが40秒のせられるようになった。しかし、その間も手足が動き、じっとしていることが難しく、そのたびに舌にも力が入ってしまうため、40秒間ずっと脱力できているわけではない。サ行音に関しては、口が横に広がる「につこりの口」を意識することで、単音では「セ」「サ」はほぼ言うことができるが、口形が丸くなる「ソ」「ス」は構音点が後方になってしまい「ショ」「シュ」に聞こえることが多い。単語練習においては、語頭にある「セ」「サ」は、言い直しを含めるとほぼ正しく言うことができている。自分の発した音が正しかったかどうかの判断は難しく「分からん」と答えることが多いが、正しく発音できなかったときに「もう一回」と言い直しを求めると、気を付けて言おうと意識することができ、正しく言えることが増えてきている。現段階では自分の発した声をその瞬間に判断することはできないため、録音して聴かせることで注意して聴ける耳を育てていきたい。また、意識して話すとできるようになってきているため、即時評価を行い、「意識して言うと正しく言えるんだ」という自信を高め、自分から意識して発音する姿を目指していきたい。そのために正しく言えたときにはシールを貼って視覚化し、回数を重ねることでサ行音が正しく言えた感覚を体感させていきたい。読み書きに関しては、ひらがなの清音の読み書きがほぼできるようになってきた。教室内の掲示物などを自分から読んで理解しようとする姿が見られたり、ひろい読みではあるが自分で文字を見て音読できるようになったり、文字に興味が出てきたことが伺えるようになってきたところである。神経衰弱ゲームを通して、自分で書いた文字を自分で読む楽しさも味わわせたい。

7 単元指導計画 (「セ」→「サ」→「ソ」→「ス」の順)

＜単元のねらい＞

- ・発声・発語器官の微細な動きやそれを調節する力を高め、文字と音とを対応させてサ行音を聴いたり発音したりすることができる。 【4－(2)、5－(5)】
- ・神経衰弱ゲームを通してサ行音を含む単語を正しく発音するとともに、短文や音読、会話でも明瞭度を上げることができる。 【2－(3)、3－(3)、6－(2)】

次	ねらい	主な学習活動	評価
1	文字と音とを対応させて、正しい音と誤り音とを聞き分けることができる。	・発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 ・単音で正しい音と誤り音とを聞き分ける。 ・文字と音とを対応させて聞き分ける。 ・教科書の音読をする。	・粗大運動や微細運動を行うとともに、30秒のボーロのせを行っている。【5－(5)】 ・文字と音とを対応させ、正しい音と誤り音とを聞き分けている。【4－(2)、6－(2)】
2	文字と音とを対応させて、単音で課題音を正しく発音することができる。	・発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 ・文字と音とを対応させて聞き分ける。 ・単音で課題音を正しく発音する。 ・教科書の音読をする。	・口をはっきりと動かして母音の口形練習をしている。【5－(5)】 ・文字と音とを対応させ、単音で課題音を正しく発音している。【2－(3)、3－(3)、4－(2)、6－(2)】
3	文字と音とを対応させて、無意味音節の中にある課題音を正しく発音することができる。	・発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 ・単音で課題音を正しく発音する。 ・課題音の前後に母音や言いやすい音を付けて正しく言えるように発音する。 ・教科書の音読をする。	・粗大運動や微細運動を行うとともに、30秒のボーロのせを行っている。【5－(5)】 ・文字と音とを対応させ、無意味音節の中にある課題音を正しく発音している。【2－(3)、3－(3)、4－(2)、6－(2)】
4	文字を見ることで音と対応させながら、単語に含まれる課題音を正しく発音することができる。	・発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 ・単語で正しい音と誤り音とを聞き分ける。 (語頭、語尾、語中のそれぞれ) ・課題音がつく言葉見付けをする。 ・見付けた言葉を復唱する。 ・教科書の音読をする。	・40秒のボーロのせを行っている。【5－(5)】 ・単語の中にある音を聞き分けている。【4－(2)、6－(2)】 ・課題音がつく言葉を見付け、単語に含まれる課題音を正しく発音している。【2－(3)、3－(3)、4－(2)、6－(2)】
5	ひらがなを読んだり書いたりして、文字と音とを対応させながら、単語に含まれる語頭の課題音を正しく発音することができる。	・発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 ・課題音が語頭にある単語を読み書きする。 ・神経衰弱ゲームをし、課題音の定着を図る。 ・取ったカードを読み、録音して聴く。 ・教科書の音読をする。	・母音の口形練習をしたり、40秒のボーロのせをしたりしている。【5－(5)】 ・自分でひらがなを読んだり書いたりしながら、単語に含まれる語頭の課題音を正しく発音している。【2－(3)、3－(3)、4－(2)、6－(2)】 ・取ったカードを読んで録音し、評価している。【4－(2)】
6 (本時)	ひらがなを読んだり書いたりして、文字と音とを対応させながら、単語に含まれる語頭・語尾・語中にある課題音をそれぞれ正しく発音することができる。	・発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 ・課題音が語頭・語尾・語中にある単語を読み書きする。 ・神経衰弱ゲームをし、課題音の定着を図る。 ・取ったカードを読み、録音して聴く。 ・教科書の音読をする。	・母音の口形練習をしたり、40秒のボーロのせをしたりしている。【5－(5)】 ・自分でひらがなを読んだり書いたりしながら、単語に含まれる語頭・語尾・語中にある課題音をそれぞれ正しく発音している。【2－(3)、3－(3)、4－(2)、6－(2)】 ・取ったカードを読んで録音し、評価している。【4－(2)】
7	ひらがなを読んだり書いたりして、文字と音とを対応させながら、短文に含まれる課題音を正しく発音することができる。	・発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 ・今まで集めた単語を使って、短文作りを行う。 ・作った短文を読み、録音して聴く。 ・教科書の音読をする。	・50秒のボーロのせを行っている。【5－(5)】 ・今まで集めた単語を使って、短文を作っている。【4－(2)、6－(2)】 ・短文に含まれる課題音を、録音して自己評価している。【2－(3)、3－(3)、4－(2)、6－(2)】
8	音読や会話の中でも、課題音を正しく発音することができる。	・発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 ・教科書を音読する。 ・自分の音読を録音して聴く。 ・今までの学習を振り返り、できるようになったことをまとめる。	・60秒のボーロのせを行っている。【5－(5)】 ・音読に含まれる課題音を、録音して自己評価している。【2－(3)、3－(3)、4－(2)、6－(2)】 ・自分ができるようになったことに気付いている。【2－(3)、3－(3)】

8 本時について

本時は、「前時までに見付けた『サ』のつく単語を書いたり読んだりしながら神経衰弱ゲームを行うことを通して、『サ』音は、口角を引き(＝につこりの口)、脱力した舌(＝スプーンの舌)の先を上歯茎部に近付けて、正中から細い息を出したときに摩擦してつくられる風の音『s』に、『ア』の母音を加えてできることを確認し、文字と音とを対応させながら、単語の語頭・語尾・語中のどこにある『サ』も『につこりの口』『スプーンの舌』『細い息』の3つのポイントを意識して発音することができる」ことをねらいたい。

そのために次の3点について支援を工夫したい。

(1) 指導・支援について

① 「サ」音の構音指導

本時は、まず、口角を引いた「につこりの口」を意識するために母音の口形練習を行い、ボーロを使って「スプーンの舌」の練習をした後、舌の正中に呼気を通すことを意識しながら「サ」音を復習する。教師が発した音も自分が発した音もよく聴くことで、サ行音の子音となる風の音「s」の感覚をつかませたいと考えている。正しく言えないときには、舌と上歯でストローを軽く噛み、脱力した舌の正中に呼気を通して風の音「s」を作りながら、息の流れを止めずに次の母音である「ア」を言うことで、単音で正しく発音させたい。A児は構音点が後方になりがちのため、口角を引いて口の開きを小さくした状態で正中から細い息を出すように声をかけることで、構音点を正しい位置に導きたい。その際、「につこりの口」「スプーンの舌」「細い息」の3点が意識できるよう、掲示して位置付けておく。その後、前時で使った語頭に「サ」がつく単語のカードを復唱したり、文字を自分で読んだりしながら、語頭の「サ」音の定着を図りたい。

本時の神経衰弱ゲームでは、語頭だけではなく、語尾や語中に「サ」のつく単語を追加し、自分で文字を見ながら「サ」の音を意識し、正しく発音することができるようになせたい。ゲームで使う単語は、前時までに自分で見付けたものを主に使う。自分で見付けた言葉は、いつも使ったり聞いたりするなど馴染みのある言葉であることが多いため、正しく言えるようになることがA児の充実した生活に結びついていくであろうと考える。A児がカードをめくったときには、書いてある単語を自分で読み、そのあとで教師が復唱する。教師がめくったときには、まず教師が読み、そのあとA児が復唱する。楽しくゲームを行いながら、何度も繰り返し発音練習をする中で、即時評価をし、正しく発音したときの感覚がつかめるように声をかける。また、誤って発音してしまった場合やあいまいな場合には「もう1回」と声をかけたり、復唱させたりして、正しい発音での言い直しを促す。本時は、言い直しをしてでも語頭・語尾・語中にある「サ」が正しく発音できることを目標にする。

② ひらがなの読み書きの定着

正しく発音できるだけではなく、文字と結び付けて音を覚えていくことが、今後のA児の生活には欠かせないものとなる。神経衰弱ゲームで使うカードを作るときには、前時までに見付けた言葉を聴写する。聴写するときには、教師が言うのを聴き、復唱してから書き、書き終わったあとは自分でその文字を見て読み、文字からも正しく発音する意識をもたせたい。文字を思い出せずに書けないときには、「さるの『さ』」など教科書教材で使った言葉やA児にとって身近な言葉を示すことで文字を思い出すきっかけにし、それでも思い出せないときには五十音表を示し、その中から探させる。文字を読み間違えたときには、間違えて覚えてしまわないよう、正しい音を聴かせて復唱させる。本時は、五十音表などを見る回数をなるべく少なくして、自分で思い出しながらひらがなの読み書きができるようにしたい。

③ 自己肯定感を高めるための評価

A児は、自分の発音の正誤を弁別できるまでには至っていないため、教師による即時評価とともに、終末では単元に入る前に録音した発音と本時の発音を比較して聴くことを通して自己評価し、自分の発音の成長を確かめ、自信につなげたい。また、学習の流れが分かるように、活動内容を黒板に位置付け、活動が終わるごとに◎○△で自己評価を行う。それを見ながら本時の頑張りをA児自身が認識できるようにしたい。

(2) 本時のねらい

前時までに見付けた「サ」のつく単語を書いたり読んだりしながら神経衰弱ゲームを行うことを通して、文字と音とを対応させながら、単語の語頭・語尾・語中のどこにある「サ」も「にっこのり口」「スプーンの舌」「細い息」を意識して発音することができる。

【2－(3), 3－(3), 4－(2), 5－(5), 6－(2)】

(3) 本時の展開

過程	学習活動	指導・援助 ☆評価	
つかむ	1 はじめの挨拶をする。	・見通しがもてるよう学習内容を黒板に位置付ける。 ・話題が見付けられないときには、休日に楽しかったことを聞く。 ・音の誤りがあっても、ここでは指摘しない。 ・理想的な舌の写真を掲示し、自分の舌と見比べさせ、力が入っているときには触って脱力を促す。 ☆母音の口形練習をしたり、40秒のボーロのせをしたりして、発声・発語器官の機能を高めている。 【5－(5)】	
	2 日時と今日の学習内容を確認する。		
	3 「お話タイム」で最近の出来事を話す。		
	4 発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 母音の口形練習、 ボーロを使った舌の脱力練習		
	5 本時の課題を確認する。		
	ことばのはじめ・おわり・なかにある「さ」を、3つのポイントにきをつけていおう。		
ふかめる	6 前時までに練習した「サ」を復習する。	・「シャ」のように聞こえたときには、「にっこのり口」「スプーンの舌」「細い息」の3点を意識し、ストローを使い舌の正中に呼吸を通して風の音をつくり、息の流れを止めずに「ア」を言う練習を行う。 ・前時の神経衰弱ゲームで使ったカードを使用する。 ・読み間違えたときには、文字を指しながら読み方を示し、ひらがなの読みを間違えて覚えないようにする。 ・「サ」のつく単語を、復唱してから書かせ、書き終わってから文字を見て読ませ、「サ」の発音について即時評価をする。 ・ひらがなが思い出せないときには、「さるの『サ』」など身近な言葉をヒントに出したり、五十音表を提示したりする。 ☆自分でひらがなを読んだり書いたりしながらカードを作っている。 【4－(2), 6－(2)】	
	7 語頭に「サ」のつく単語を発音する。 文字を見ないで復唱。自分で文字を見て。		
	8 前時までに見付けた語尾と語中に「サ」のつく単語を聴写し、カードに書く。		
	9 カードを使って、神経衰弱ゲームを行う。 ・カードを2枚めくり、同じ言葉であればもらえ、もう1度できる。違う言葉であれば、交代する。 ・カードをめくった人が最初に発音し、めくらなかった人はそれを復唱する。 ・すべてのカードを取ったら、どちらがどれだけ多く取ったのかを計算する。		
	10 自分が取ったカードを読み、録音する。		
まとめる	11 以前の録音と今日の録音を比較して聴き、自己評価する。	・語頭・語尾・語中に分けて読み、録音する。 ・2つの録音を比較して聴き、よくなったのか、悪くなったのか、変わらなかったのかを聞く。 ☆自分の録音を聴いて自己評価し、単語の語頭・語尾・語中のどこにある「サ」も正しく言えるようになったことを実感している。 【2－(3), 3－(3), 4－(2), 5－(5), 6－(2)】	
	12 「サ」に気を付けて教科書教材を音読する。		・「サ」に印を付け、今日の学習が音読にも生かせることを示す。
	13 終わりの挨拶をする。		

ポイント①(学習環境の工夫 その1)

始まる時刻や終わる予定時刻、1時間の活動内容などを黒板に示したことで、見通しをもって活動することができる。視覚的に終わりが分かることが、A児のやる気や安心になった。

ポイント④(自己肯定感を高めるための評価
その1)

言葉による即時評価だけではなく、うまく発音できたときにはシールを貼っていった。視覚化することで、できたことや頑張ったことをA児自身が自覚することができ、自信につながった。自己評価できるようになるための第一歩として他者評価を利用し、繰り返し練習する中で、うまく発音できたときの発声・発語器官の動きをつかませたい。

ポイント⑤(サ音の構音指導 <段階に応じた指導>)

本時では、A児が前時までに見つけた言葉の中から「さお、さかな、さんかく、あさ、かさ、くさ、ながさ、はさみ、やさい、おさがお、おかあさん」の11語を使った。サ音が語頭にある単語は前時に練習したが、語尾や語中にある単語練習は初めてだったこともあり、サ音の前の音はなるべくサ音と同じア列の単語を選定した。それにより、サ音を言う前にア音の口形をつくり、サ行音の子音である「s」を出したら、またア音の口形に戻ることができ、発音しやすいのではと考えた。A児の実態を見ながら段階的な指導を心がけたい。

ポイント⑥(ひらがなの読み書きの定着・活動の工夫)

ひらがなの読み書きが定着していないことや短期記憶が苦手なことなど、A児の実態から活動を決め出し、神経衰弱ゲームを仕組んだ。小さな声で言いながら文字を書いたり、自分で書いたカードを何度も読んだり、ゲームに勝つためにカードのある場所を覚えようとしたり、楽しみながら活動する姿も見られ、A児に適した活動であった。

(2) 本時のねらい

前時までに見付けた「サ」のつく単語を書いたり読んだりしながら神経衰弱ゲームを行うことを通して、文字と音とを対応させながら、単語の語頭・語尾・語中のどこにある「サ」も「にっころの口」「スプーンの舌」「細い息」を意識して発音することができる。

【2-(3)、3-(3)、4-(2)、5-(5)、6-(2)】

(3) 本時の展開

過程	学習活動	指導・援助 ☆評価
はじめ	1 はじめの挨拶をする。	
つ	2 日時と今日の学習内容を確認する。	・見通しもてるよう学習内容を黒板に位置付ける。
か	3 「お話タイム」で最近の出来事を話す。	・話題が見付けられないときには、休日に楽しかったことを聞く。
わ	4 発声・発語器官の機能を高める練習を行う。 母音の口形練習、 ポーロを使った舌の脱力練習	・音の誤りがあっても、ここでは指摘しない。
ま	5 本時の課題を確認する。	・理想的な舌の写真を掲示し、自分の舌と見比べさせ、力が入っているときには触って脱力を促す。
め	6 前時までに練習した「サ」を復習する。	☆母音の口形練習をしたり、40秒のポーロのせをしりして、発声・発語器官の機能を高めている。 【5-(5)】
あ	7 語頭に「サ」のつく単語を発音する。 文字を見ないで復唱。自分で文字を見て	・「シャ」のように聞こえたときには、「にっころの口」「スプーンの舌」「細い息」の3点を意識し、ストローを使い舌の正中に呼吸を通して風の音をつくり、息の流れを止めずに「ア」を言う練習を行う。
か	8 前時までに見付けた語尾と語中に「サ」のつく単語を聴写し、カードに書く。	・前時の神経衰弱ゲームで使ったカードを使用する。
め	9 カードを使って、神経衰弱ゲームを行う。	・読み間違えたときには、文字を指しながら読み方を示し、ひらがなの読みを間違えて覚えていないようにする。
る	10 自分が取ったカードを読み、録音する。	・「サ」のつく単語を、復唱してから書き、書き終わってから文字を見て読ませ、「サ」の発音について即時評価をする。
ま	11 以前の録音と今日の録音を比較して聴き、自己評価する。	・ひらがなが思い出せないときには、「さるの『サ』」など身近な言葉をヒントに出したり、五十音表を提示したりする。
め	12 「サ」に気を付けて教科書教材を音読する。	☆自分でひらがなを読んだり書いたりしながらカードを作っている。 【4-(2)、6-(2)】
る	13 終わりの挨拶をする。	・「サ」の正しい発音を定着させるために、シールを貼って視覚化しながら即時評価し、正しく言えた自信につなげる。「サ」以外の音の誤りについては指摘しない。

ポイント②(サ音の構音指導<課題の意識化>)

アセスメントに基づき、写真を使って視覚化するとともに、理解しやすい言葉で3つのポイントを示したことは、A児にとってやるべきことが明確になり、サ音の正しい発音につながった。また、教師による指示や評価もその3点をもとにして行うことができた。

ポイント③(サ音の構音指導 <教材・教具の工夫>)

サ行音の発音に欠かすことのできない風の音「s」に母音「ア」を付けることで「サ」が発音できることを見て理解できるようにするため、「s」と「ア」の文字を両面にした札を作成した。裏返すスピードを変化させることで、「sーアー」から「サ」に導くことができた。

ポイント⑦(自己肯定感を高めるための評価
その2)

録音して以前の発音と比べたことにより、「上手に言えるようになった」という満足感を味わわせることができた。自分の声をフィードバックして自分で評価できるようになるためには、聴覚による評価のみではなく、ビデオなどに録画して視覚でも評価できるように工夫する。

ポイント⑧(学習環境の工夫 その2)

机、鏡の前、床など活動の場所を変化させることや、活動が終わるごとに黒板に◎△◇のマークを貼ることは、じっとしていることが苦手なA児には立つ必然になり、活動への集中力につながった。

ポイント⑨(般化に向けての工夫)

般化につなげるためには、自分の発音の誤りに気付いて自分で直していくことが大切である。構音方法をおさえたあとは、自分で気付くための手立てを考えていきたい。